

平成 27 年度 学校法人 三幸学園 千葉ビューティーアート専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 稲毛 耕

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長：阿部正孝

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にする」というビジョンを掲げている。

また『技能と心の調和』を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献できる人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 重点施策振り返り

・人間性を高める教育の実践 高い現場力の醸成

「お客様を美しくすることで感謝される人材、サロン・組織を活性化させる人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出することができると考え、挨拶・マナーの徹底を生徒指導目標に掲げてきた。地域の方に施術サービスを提供する校内の実施・本物の結婚式を学生が手懸けるブライダルプロデュースなど人間性、現場力を向上できる行事や課外活動を実施してきた。就職決定率は90%を超え、ほぼ全員が学んだ分野に関連する業界へと進んでいる。

今後は、更なる人間性教育と現場力の醸成に注力し、卒業生全員の就職決定と各種資格の取得率を高めていくながら、積極的な課外活動の参加と地域の活性化につながる学校開放や校内サロンを実施していく必要がある。現場で活躍するための基礎力を資格・検定取得をベースに各学科で重点項目として掲げ、指導内容の統一を行うほか、学科会・教科会を実施することにより、進捗状況の確認と教育の質の向上を実現させたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・理念・育成人材像が明確になっている点は評価できる
- ・ビューティー、ブライダル業界から必要とされる人材要請が多様化しているため、専門学校での人材育成も幅広い教養と専門性が求められている
- ・地域活動や地域貢献では、まだニーズの掘り起こしをすることで、活躍の場があるのではないかと
- ・業界理解と専門性の高さが採用における大学生との差別化であり専門学生の強みでもある。資格取得はそのベースを担保するものだと思うので、意欲的に各種資格試験にトライして欲しい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・保護者、生徒への学校の理念・目的・育成人材像・将来構想の浸透
- ・教職員の更なる教育理念の理解と実践を図り、指導方法の統一・レベルアップを推進

② 今後の改善方策

- ・ミッション&ビジョンポスターを校内掲示し、HR活動等を通じて理解と浸透を図る
- ・学内研修、授業見学等を通じ、教職員が相互の状況を確認できる体制を強化する

③ 特記事項

- ・教育理念、目標、人材育成像を体系化し全教職員への浸透を図っている
- ・年に一度保護者アンケートを実施し、学校教育の理解・浸透状況について客観視している

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・理念・育成人材像が明確になっている点は評価できる
- ・ビューティー、ブライダル業界から必要とされる人材要請が多様化していたため、専門学校での人材育成も幅広い教養と専門性が求められている
- ・業界ニーズを常に把握するためにも業界との連携を密にする必要がある
- ・理念、目標、育成人材像を全教職員に浸透させる取り組みを今後も続けて欲しい

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

- ・リーダー会、教科会、クラス会議、広報会議など各会議を活性化させ且つ効率化を図る
- ・情報システム化により業務の効率化をさらに推し進める

② 今後の改善方策

- ・人材育成方針に沿った学科・コースの目標・計画・進捗を監視・修正できる各会議の実施
- ・グループウェアの効果的な活用方法の理解・促進

③ 特記事項

- ・年6回、定期的に全教職員・講師に向けて会議を実施し運営方針の浸透と情報共有を積極的に行う
- ・2015年4月三幸学園システム推進室設置により、グループウェアの活用がより効果的に遂行できるようになり業務の効率化と情報共有が期待できる

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・適切に学校運営されているように感じる
- ・情報共有のための会議等を定期的に行っていることは評価できる
- ・適切な情報公開はコンプライアンスに繋がる
- ・業務の効率化によって確保できる時間を、教務指導に充てていただきたい

(3). 教育活動

【評価項目】	自己評価		学校関係者評価	
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

- ・キャリア教育を推し進めるために社会ニーズに沿ったカリキュラム・教育方法を開発する
- ・授業評価、実習先評価の精度向上と教育への反映

② 今後の改善方策

- ・提携企業との連携を強化し授業科目の開設と授業方法の改善・工夫を行う
- ・授業評価における評価項目の見直しを実施し教員の質を向上させる

③ 特記事項

平成 26 年度より学生による授業評価の見直しが完了。また、実習先(企業)と実習生(学生)による相互評価を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・カリキュラム、教育開発について職業教育の視点で見直し・作成されている点が評価できる
- ・教育理念・方針、成績評価基準など明文化させていて判りやすい

・概ね教育活動は適切に実施されていると思われる

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	④	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・進路決定率・資格取得率の更なる向上
- ・退学者の低減
- ・卒業生の社会的活躍の情報収集と教育活動への反映

② 今後の改善方策

- ・資格取得への動機づけの強化及び就職サポート、HRなど環境面への整備
- ・退学者プロジェクトに基づき、クラス報告会の実施と退学防止事例の共有を実施
- ・卒業生によるキャリアガイダンスなど講演や特別授業などを実施

③ 特記事項

- ・平成 27 年度退学率 6.3%(平成 26 度 9.2%) → 退学率の低減が図られた
- ・平成 27 年度進路決定率:100%(平成 28 年 3 月 31 日現在)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・資格取得は専門学校の中での学習の成果だと考えられるので取得していることは大事である
- ・高校では退学の理由が金銭面によるものが多くなっているため、経済面でのサポートが必要ではないか。
- ・退学率の低減が図れた事は評価できる。さらに低減できる施策を取入れて欲しい。
- ・退学者の少ない上級学校を高校側としては勧める傾向にある。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・保護者との連携は問題行動のある生徒に偏る傾向がある
- ・卒業生への支援体制を構築する

② 今後の改善方策

- ・定期的な保護者との連携を強化(学校行事見学、保護者通信の送付)
- ・更なる卒業生との連携強化を図るため同窓会サイトSANKO LINK を活用する

③ 特記事項

- ・カウンセリングルームを設置し整備はできているがまだまだ活用ができていないためカウンセリングルームを周知させる
- ・飛鳥未来高校にて「職業理解のためのガイダンス」を実施している
- ・学生に通知が届く情報発信ツール『うさぎノート』の運用を開始
- ・平成28年度よりリターンを支援する『ふるさとサポート』制度を実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学生支援体制は手厚く、整備されているように感じる
- ・就職支援は企業との繋がりを強化し情報共有できる協力体制の確保が必要だと思われる
- ・同窓会サイトの活用を卒業生にもっと浸透させる工夫が必要だと感じる
- ・高等学校等と連携したキャリア教育の取り組みは評価できる

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・更に質の高い教育を目指し、教育環境・体制を整備する
- ・防災、災害への更なる高い意識

② 今後の改善方策

- ・関連企業との連携を強化し、学外実習を更に充実した内容にする
- ・生徒への防災への啓蒙と緊急時対応の危機管理を全教職員に周知徹底する

③ 特記事項

- ・避難訓練の実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・施設、設備は最新であり、適切な教育環境であると思われる
- ・実習室も十分確保されており、海外研修での内容も充実しているように思われる
- ・防災マニュアルの整備、避難訓練の実施など評価できる

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

・学生募集活動は適正に行っているが、入学後の学生状況や進路状況が適切に伝えられていない

② 今後の改善方策

・教育成果を高校の先生へ伝える
・広報担当部署との連携を強化していく

③ 特記事項

・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている
・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している

④ 学校関係者評価委員会コメント

・募集活動は適切に行われており、評価できる
・学納金も妥当な範囲で設定されている
・高等学校への教育成果の報告が定期的に行われている点は評価できる。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
- ・規模の増加に対応するための人材の育成

③ 特記事項

○中長期的な財務基盤の安定について

- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・財務状況は健全であり、安定した財務基盤を維持していることは評価できる
- ・適切な会計監査が行われており、且つ情報公開により透明性を保っている事は評価できる

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

①課題

- ・更なる法令遵守の推進

②今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員に法令順守に対する啓蒙を積極的に実施していく

③記事項

- ・2015年度自己評価結果より公開を開始

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・自己評価の公開を開始した点は評価できる
- ・今後も個人情報を適切に保護していただきたい

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

- ・ボランティア活動をさらに活性化させる
- ・地域に対する公開講座が少ない

② 今後の改善方策

- ・ボランティア活動を積極的に進めていく
- ・提携企業との連携を強化する

③ 特記事項

- ・千葉ロッテマリーンズ主催試合でのビューティーブース設置
- ・そごう千葉店でドレスショーと制作体験ブース設置
- ・千葉パルコで無料ヘアアレンジ・メイク施術の提供
- ・スチューデントサロンを毎週開催し、地域の方に施術提供
- ・夏休み子どもキャリア体験にて小学生にブライダルの職業体験メニューを生徒がサポート

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・課外活動、ボランティア活動を積極的に実施している点は評価できる
- ・校内サロンワークを通じた地域貢献は評価できる
- ・例えば着付けなどの技術は地域のお祭りなどと連携して浴衣の着付けなどの講座開催はニーズがあるように思われる。

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	②
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	②	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	②	1

①課題

- ・留学生に対して、積極的な募集活動を行えていない現状がある

②今後の改善方策

- ・留学生向けのホームページ上コンテンツの強化
- ・留学生に対する説明会、ガイダンスの実施回数を増加
- ・留学生に対する就職先の確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する

③特記事項

- ・2014 年度から「留学生学費減免入学」制度を実施している
- ・日本語学校の開設
- ・台湾から3名の留学希望学生の学校見学実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・着付けなど日本文化に触れる事ができる内容の学校なのでニーズがあるのではないか。
- ・日本語学校の設立により留学生がふえるのではないか。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・「お客様を美しくすることで感謝される人材、サロン・組織を活性化させる人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するだけではなく人間性を高める教育を併せて展開することを教育目標としている。現場で活躍するための基礎力を資格・検定取得をベースに各学科で重点項目として掲げ、ほぼ目標通りの取得率を残した。最終的な就職決定率については、100%と全員の進路決定をすることができたので、今後も就職支援・就職指導にも力を入れていきたい。

・心豊かな人間性を育むために学校生活において挨拶・マナー指導、行事、ボランティア活動を通して自主性や主体性を引き出し高める機会を取り入れているが、生徒自身の具体的な目標として目指す将来像を早い時期に合致させて、高いモチベーションを維持し続ける仕組みや体制を更に整備したい。